

中学歴史プリント（過去問類似）

飛鳥時代

名前

得点

/9

問1 白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。その際、九州の大宰府を守るために築かれた土塁と堀の名称、および九州沿岸の警備について兵士の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。

(2024年 香川公立入試 類似)

1. 水城（みずき） — 防人（さきもり）
2. 多賀城（たがじょう） — 健児（こんでい）
3. 屋島城（やしまのき） — 東山道兵
4. 山城（やまじろ） — 武士（ぶし）

問2 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が603年に定めた「冠位十二階」の制度は、それまでの「氏姓制度」による官職のあり方をどのように変えようとしたものですか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。

(2022年 高知公立入試 類似)

1. 家柄にとらわれず、個人の能力や功績がある人物を役人として登用すること。
2. 有力な豪族が代々特定の官職を独占し、世襲することを保証すること。
3. 地方の豪族に対して、領地の支配権を認める代わりに軍役を課すること。
4. 仏教の教えを広めるために、僧侶に対して位階を授けること。

問3 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何というか、名称を答えなさい。

(2021年 三重公立入試 類似)

1. 白村江の戦い
2. 壇ノ浦の戦い
3. 桶狭間の戦い
4. 長篠の戦い

問4 日本の歴史において、古代の律令国家の形成期と、近代の明治維新期の両方で共通して見られた「中央集権体制」の構築に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。

(2024年 福井公立入試 類似)

1. 地方の有力者が所有する私有地を認め、その土地の管理を各地域に任せることで国家の安定を図った。
2. それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。
3. 権限を地方の役所に分散させることで、地域の事情に合わせた柔軟な政治運営を行おうとした。
4. 武士や貴族が土地を世襲的に支配する権利を強化し、身分制度に基づく統治を徹底した。

問5 7世紀後半、日本は唐や新羅による侵攻の脅威に備え、九州の大宰府周辺に「水城（みずき）」と呼ばれる大規模な土塁や、山城（朝鮮式山城）を築きました。これらの防御施設の築城にあたって、高度な土木技術を伝え、建設を指導した渡来人たちは、どこの国から来た人々が中心であったとされていますか。

(2021年 滋賀公立入試 類似)

1. 百済
2. 新羅
3. 高麗
4. 渤海

問6 聖徳太子が定めた十七条の憲法の目的や内容について、当時の時代背景を踏まえて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。

(2023年 岐阜公立入試 類似)

1. 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。
2. 唐の律令制度をそのまま導入し、土地や人民を国家が直接支配する公地公民の原則を確立した。
3. 武士の間で起こる領地争いを公平に裁くため、日本で初めての武家独自の裁判基準を示した。
4. 身分に関わらず才能のある人物を役人に登用するため、位階によって帽子の色を分ける制度を整えた。

問7 7世紀後半、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐる大海人皇子と大友皇子が争った、古代最大といわれる内乱はどれですか。

(2026年 三重公立入試 類似)

1. 壬申の乱
2. 壬生の乱
3. 保元の乱
4. 平治の乱

問8 7世紀中ごろ、唐が朝鮮半島北部の高句麗を攻撃したことにより、東アジアでは国際的な緊張が極限まで高まりました。このような外部からの脅威に対抗するため、日本（倭）において天皇中心の中央集権国家体制を整えようとして行われた一連の政治改革はどれですか。

(2020年 徳島公立入試 類似)

1. 大化の改新
2. 明治維新
3. 公事方御定書の制定
4. 十七条の憲法の制定

問9 聖徳太子（厩戸皇子）が小野妹子を隋に派遣した際、その外交方針や目的として最も適切な記述はどれですか。

(2026年 青森公立入試 類似)

1. 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、大陸の進んだ政治制度や文化を学び取ろうとした。
2. 中国の皇帝から「倭王」としての称号を得ることで、国内の有力豪族を支配する正当性を確立しようとした。
3. 中大兄皇子が進める大化の改新を成功させるため、隋から大規模な軍事支援を取り付けようとした。
4. 天武天皇が定めた律令制度を中国に輸出することで、日本の国際的地位を高めようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 水城（みずぎ） — 防人（さきもり）	大敗を喫した天智天皇は、唐や新羅が日本へ攻めてくることを恐れ、九州の政治の拠点であった大宰府の北側に巨大な堤防である「水城」を築きました。また、瀬戸内海沿いに朝鮮式山城を築いて防衛線を整え、東国などから集められた「防人」を九州北部の沿岸警備に配置しました。
問2	答え 1 家柄にとらわれず、個人の能力や功績がある人物を役人として登用すること。	当時の日本は、氏（家柄）によって地位が世襲される氏姓制度が中心でしたが、聖徳太子は天皇中心の国づくりを進めるため、個人の才能を重視するこの制度を導入しました。これにより、家柄が低くても能力のある者が朝廷の重要な役人として活躍できる道が開かれ、官僚機構の整備が図られました。
問3	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。
問4	答え 2 それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。	律令国家における「公地公民」の原則と、明治新政府による「版籍奉還」や「廃藩置県」は、どちらも土地と人民の支配権を中央へ集中させることを目的とした政策です。古代では豪族、近代では大名という、それまでの地方支配者の権利を否定し、中央政府が直接的に国民を統治し、税を徴収する仕組み（中央集権体制）を整えようとした点が共通しています。
問5	答え 1 百済	663年の白村江の戦いで日本（倭）と百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に敗北した後、日本は大陸からの報復的な侵攻を恐れて国防を強化しました。この際、日本に亡命してきた百済の人々が持つ高度な技術が、水城や大野城といった堅固な防御施設の築城に活用されました。
問6	答え 1 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。	十七条の憲法は、法的な罰則よりも役人が守るべき精神的な規範に重点が置かれています。「和を以て貴しとなす」という言葉に代表されるように、豪族同士の争いを戒め、仏教や儒教の教えを通じて天皇への忠誠を促すことで、中央集権的な国家を築こうとする意図がありました。
問7	答え 1 壬申の乱	天智天皇が亡くなった後、その弟である大海人皇子と、子である大友皇子の間で後継者争いが起こりました。これが672年の壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、中央集権化をさらに推し進めることとなりました。
問8	答え 1 大化の改新	唐が高句麗に侵攻し、朝鮮半島情勢が不安定になったことは、日本にとって国防上の大きな脅威となりました。この危機を乗り越えるため、中大兄皇子と中臣鎌足らは蘇我氏を打倒し、天皇を頂点とした強力な国家体制を築く「大化の改新」を断行しました。十七条の憲法はそれ以前の推古天皇の時代に制定されたものです。
問9	答え 1 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、大陸の進んだ政治制度や文化を学び取ろうとした。	聖徳太子は隋との交渉において、これまでの「貢ぎ物をして臣下となる」形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとしていました。これは、周辺諸国に対して日本の自立性を示すとともに、進んだ仏教や政治の仕組みを主体的に取り入れ、天皇を中心とした中央集権体制を整えるための手段でもありました。選択肢にある中大兄皇子や天武天皇は、聖徳太子よりも後の時代の人物であり、この時期の出来事とは区別する必要があります。